



まなび通信

「一人一人の学びをよくする」ICT活用

令和3年10月1日(金)、教務主任を対象に令和3年度「中丹の教育」コア会議をオンラインで実施！！

今年度、1人1台端末が導入され、各校ではICT活用を積極的に進めています。そのような中、授業改善、校内研修のさらなる充実に向け、「ICTを活用した授業改善やICT活用に係る校内研修の充実について」と題して京都教育大学附属桃山小学校 樋口万太郎 先生に講演をしていただき、具体的な活用方法や今後のICT活用のステップについて学びました。

～樋口先生の講演から～

授業改善に向けて

ICTを活用したこれからの授業では、『ICTを使って授業をよりよくする』ことから『ICTを使って児童生徒一人一人の学びをよくすること』への発想の転換が必要である。

あえて「制限」をかけることで児童生徒が自然と話したい、伝えたいという行動を引き出す。
例えば、撮ってくる写真は3枚まで。教室で1枚を選んで提出。こうすることでアウトプットしたい気持ちにさせる。

インプットとアウトプットの割合は3:7。
このとき学びが生まれる。教員も児童生徒もアウトプットを大切にする。

授業づくりには、方法論(端末の使い方を考える)、内容論(教材研究)、教師論(授業者の思い)が大切である。



樋口先生にはオンラインで講演していただきました。

ICT導入に向けて

混乱期を乗り越えることで必ず道は開ける!!

今、自校はどの段階ですか？



全国一斉に1人1台端末を導入した授業が開始すると、まずは使うことから始まる。しばらくして「この活用方法でいいのか?」「効果的になっているのか?」という端末活用の混乱期がやってくる。その混乱期に試行錯誤することで、必ずその先の機能期、そして、端末活用が児童生徒一人一人のよりよい学びにつながる最適期がやってくる。

中丹教育局からの課題提起

教務主任に
求められる力

情報収集

計画・管理

バランス調整

この力に加え、『伝える力』も必要です。校内組織の活性化のため、教務主任の役割はますます重要になります。

～質疑応答で双方向型の学びを～
質疑応答では多くの質問があり、樋口先生には、全ての質問に丁寧に答えていただきました。(質問の一部)
・1時間の学びをどのように残されていますか。
・文書を書くときにタイピングで打つと、適切な漢字を使う力はありますが、書く必要がなくなります。どのように考えておられますか。

～参加者の感想より～
・ICT 機器はあくまでツールであって、使えばよいというものではなく、どのような場面で活用するのが効果的か、十分教材研究をする必要があると思った。ICTに関わらず「教科書に戻る」ということも私は大切なことだと考える。
・ノートかタブレットかではなく、子どもたちが場面に応じて自ら選択することを目指すという視点も大変よく分かった。効果的に授業を行うことばかり考えていた気がした。方法論の前に内容論だという樋口先生の言葉に重みを感じた。